

(様式1)

令和5年度試験研究課題設定のための要試験研究問題提案・回答書

(整理番号) 004	提案機関名 神奈川県 県央家畜保健衛生所
要望問題名 家畜糞堆肥の有効性の立証について	
要望問題の内容 【 背景、内容、対象地域及び規模（面積、数量等） 】 近年、耕種農家の世代交代等により家畜糞堆肥の利用離れが起きています。耕作地の地力保持及び向上に家畜糞堆肥の有効性は感じつつ、施肥時の労働力不足等により家畜糞堆肥の利用を敬遠する傾向にあります。一方、ここ数年の世界情勢をみると物流が滞っており、海外の肥料に頼ることは危惧されます。また、地元産の野菜や畜産物を望む消費者は多いため、地元（県内）の堆肥の利用も含めて地域循環型農業を推進できないかと考えています。 そこで、耕種農家が家畜糞堆肥を継続的に利用できるように、家畜糞堆肥の利用が耕作地の地力の保持及び向上において有効であることを立証するとともに、農家へ作物別の施肥方法の提案及び技術普及をしていただきたい。	
解決希望年限	①1年以内 <input checked="" type="checkbox"/> ②2～3年以内    ③4～5年以内    ④5～10年以内
対応を希望する研究機関名	<input checked="" type="checkbox"/> ①農業技術センター    ②畜産技術センター    ③水産技術センター    ④自然環境保全センター
備考	

回答機関名	農業技術センター	担当部所	生産環境部
対応区分	①実施 <input checked="" type="checkbox"/> ②実施中    ③継続検討 <input checked="" type="checkbox"/> ④実施済    ⑤調査指導対応    ⑥現地対応    ⑦実施不可		
試験研究課題名	(①、②、④の場合) 化学肥料を削減するための土壌管理技術の開発		
対応の内容等	家畜糞堆肥の利用が耕作地の地力の保持及び向上に有効であることは、有機物連用試験等で既に検証済みです。現在、上記試験研究課題の中で家畜糞堆肥やそれらを含む指定混合肥料の連用試験を実施中ですので、施用効果を確認し、施肥方法を提案します。		
解決予定年限	①1年以内 <input checked="" type="checkbox"/> ②2～3年以内    ③4～5年以内    ④5～10年以内		
備考	牛ふん堆肥連用が作物収量と土壌の化学性に及ぼす影響(1995年神奈川県農業総合研究所研究報告 第136号) 腐植質黒ボク土における有機物の連用が作物収量及び土壌化学性に及ぼす影響(2012年神奈川県農業技術センター研究報告 第155号)		